

# さがえ屋通信

お客様とのご縁を紡ぐおせんべい

皐月  
2023.5.8

煎餅工房さがえ屋  
通販専用部  
山形県寒河江市  
中央工業団地16  
TEL:0120-33-3324  
FAX:0120-05-3324



さがえ屋通信  
おせんべい



鳥のさえずりと  
春の景色につつまれて  
溝延の桜づつみ

ネット店青柳のカメラ片手にご近所旅  
(2023年4月9日 山形県西村山郡河北町 溝延の桜づつみ)

## 爽やかな桜風に しあわせを感じて

山形県西村山郡河北町溝延の桜づつみは、清流寒河江川の溝延橋付近から約3キロ弱ほど続く桜の名所。春になり桜が満開になると雪国らしい美しい景色が広がります。雪解け水が勢いよく流れる寒河江川、まだまだ多くの残雪を抱く月山や葉山、そして朝日連峰の山々の景色に囲まれた桜はとても美しく、私はこの場所が大好きです。かわいい鳥のさえずりと、所々に顔を出す水仙や菜の花がまた心を癒します。

## 朝の散歩がおすすめ

この桜づつみを楽しむのにおすすめなのが朝の散歩です。人や車も少なく、自然との一体感も存分に楽しめます。朝の空気はひんやりと澄んでいるので山々の景色もはっきりと見え、とても美しいのです。この時間帯は、「月山にまで続いているのでは」と錯覚してしまうほどの桜並木を堪能したり、ゴザを広げお団子とお茶でプチピクニックを楽しんだりすることが出来ます。堤防から少し離れた場所では写真を撮っていると、仲の良いさとうな夫婦が犬を連れて朝の散歩を楽しんでいます。壮大な景色も美しいのですが、いつまでも仲むつまじい夫婦の姿も美しいものです。

## 大きな景色と 小さな景色

ネット店の青柳です。素人カメラマンの写真と拙い文章で恥ずかしいのですが、年6回、カメラ片手にいろんな所に取材に出掛け、さがえ屋通信を書き上げ、お客様に山形の様子をお届けしております。月山の紅葉の素晴らしさを伝えるために登山に挑戦したり、蔵王の樹氷を撮影するために極寒の蔵王に出掛けたり、今まではやろうと思わないことに挑戦したり、出掛けたりする機会が増えております。その景色を写真に収めるたびに山形県には素晴らしい場所があるものだと感じます。その土地の歴史や風土、その中で暮らす人々。自然の厳しさに耐えながら、その恵みに感謝し生活することの素晴らしさを感じます。

お客様も挑戦してみませんか？いろいろな土地に出掛けてみて、いろんなことを体験したり、その土地の人たちとお話したりすると、もしかしたら人生が変わってしまうほどの出会いがあるかもしれませんよ。今回のメインの写真は雄大な景色の中の仲むつまじい夫婦の写真です。まずは散歩に出掛けてみませんか？遠くの大らかな景色の中に、もしくは足元の小さな景色の中に、思わぬ感動があるかもしれません。



春のお楽しみ

# 凍み大根の煮物



ネット店青柳のカメラ片手にご近所旅：青柳の実家編

## 自家製の凍み大根を使ったおふくろの味

1月、実家を訪れると、おふくろさんは大根と格闘中。湯気立つ大根に、箸で穴を開けひもを通していました。おふくろさん、一人で凍み大根を作っていたのです。かなりの量だったので、すかさずお手伝い開始。ホカホカの大根にひもを通し軒下いっぱいにつり下げました。あれから2カ月、冬の冷気にさらされた凍み大根は、程よく乾燥され家の中であつていました。

凍み大根はゆでた大根を冬の冷気にさらし、徐々に乾燥させて作る保存食。食べ頃は春になります。煮物にすると、独特な食感の凍み大根が身欠きにしんやその他の食材を引き立て大根自身もたっぷりだし汁を含み、まさに北国のごちそうになります。家族や親せきに春のごちそうを届けるために、冬の間準備してくれるおふくろさんに感謝です。

### 【凍み大根の煮物レシピ】

【材料】凍み大根50g、身欠きにしん3本、ニンジン2本、ジャガイモ3個  
【調味料】日本酒90cc、油50cc、みりん50cc、醤油40cc、砂糖大さじ2、鰹だしの素小さじ2、うま味調味料適量



自家製 凍み大根



【作り方】①凍み大根は一晩水につけて戻し、3cm程に切りザルにあげて水を切ります。②ニンジン、ジャガイモは大きめの乱切りにし、調味料を全て入れます。③鍋を振り調味料をなじませてふたをし中火にかけます。途中何度か鍋を振り味をなじませおおよそ30分、野菜に火が通ったら完成です。彩りにアスパラガスを添えると春らしく倍増です。ぜひ北国のごちそうをお楽しみください。(上の写真の奥にはこれも春の味覚、孟宗竹の煮物)

ネット店 青柳の

### あとがきに代えて

桜満開の頃、うちの奥さん張切りていま  
3人でお花見に行く日、お母さんとお姉さん、親  
母さんは花粉症のため車から花見の場所の溝延  
んはお姉さんと一緒に桜並木を散策。ちやうど奥  
越したお母さんは、本を参りし、3分ほどとた  
読書した頃、ようやく戻ってきた娘たち。とた  
め、残念そうなお茶。天候が悪い中、お母さん  
親しんだそうです。いくつになっても娘は娘。ま  
お母さんは娘のことを一番よく知っていた  
うです。